

令和6年度 校内研修全体計画

平戸市立度島中学校

1 研究主題

「確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成」
～読解力向上に向けた取組と、ICTの効果的な活用を通して～

2 主題設定の理由

本校では、継続して「読解力」に重点を置いて研究を進めている。2030年には超スマート社会（Society5.0）の到来が予想され、これからの時代を生き抜くために必要な力を育むことが求められている。必要な力とは、「文章や図表から読み取ったことを基にして、分かったことや考えたことを相手に伝える力」であり、その土台となるのが、文章や図表等から情報を正確に読み取る「読解力」である。各種学力調査でも、情報を活用する能力や記述式の問題など、「読解力」と関係する力について各教科で課題が見られることから、授業だけではなく、朝活動など学校生活全体を通して読解力向上に向けた取組を継続して行うことで、生徒の学びを進化させ、生きる力へとつなげたい。

また、昨年度からは「ICT活用」の研究にも力を入れている。GIGAスクール構想により、1人1台端末と高速ネットワークが学校に整備された。これまでは、いかに端末に慣れるか、授業にどう取り入れるのか、などが話題の中心であったが、今後は、これらの環境を活用していかに学習者中心の学びを作っていくかが重要となる。また、デジタル教科書やクラウドツールなど、新たな学習リソースを取り入れた学びをどのようにデザインしていけばよいのかについても知見を深めなければいけない。全教員で、文部科学省が定める教育課程「新学習指導要領」のもと、教科ごとの特質・学習過程を踏まえてどんなICT活用ができるのか、検証・推進を図りたい。

3 研究仮説

- 「長崎県授業改善メソッド」を踏まえた授業づくりを行うことで、生徒は読解力の視点を意識しながら活動に取り組み、読解力を向上させることができるであろう。
- ICTを学習活動に効果的に活用することで、個別最適な学びと協働的な学びの実現につながるであろう。

4 研究内容

（1）授業改善

- ・ 学び方スタンダードの提示と定着
- ・ 「めあて」と「まとめ・振り返り」の整合性を意識した授業づくり
- ・ ICTを活用した研修・研究授業の実施

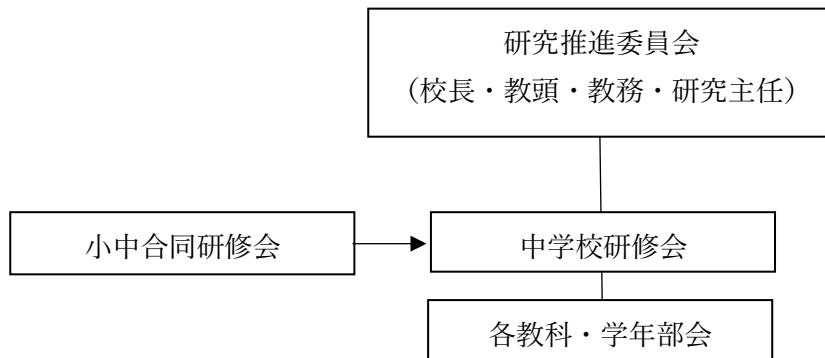
（2）朝活動の充実

- ・ 視写・読み方レスキューを用いた、読解力向上の訓練
- ・ Playingtaipingを用いた、タイピング技術の習得
- ・ コグトレオンラインを用いた、認知能力向上の訓練

5 研究組織

- (1) 研究推進委員会は、校長・教頭・教務主任・研究主任で構成し、必要に応じて実施する。
 (2) 必要に応じて小中合同研修会を行う。

組織図



6 年間予定

1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の諸活動についての検討→共通理解→実施 ・全体計画、年間活動の検討 ・「めあて」と「まとめ・振り返り」についての研修
夏休み	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の取り組み反省・改善案の検討 ・小中合同研修の企画・実施 ・授業提供者の決定
2～3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTに関する外部機関を活用した研修 ・ICTを活用した研究授業の実施（年3回） 全教員参観・放課後授業反省会
冬休み	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の取り組み反省・改善案の検討 3学期に向けて
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査の結果分析 ・今年度の反省、次年度に向けて